

2025年3月期 第1四半期 決算補足資料

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 業績（連結）のポイント | P.3 |
| 3. 業績（連結）の状況 | P.4 |
| 4. 業績と予想（連結） | P.5 |
| 5. 主要製品の状況 | P.6 |
| 6. 開発品一覧 | P.7～9 |

2024年7月31日
杏林製薬株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2025年3月期 第1四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	22年3月期	23年3月期	24年3月期	25年3月期	対前年	25年3月期	対前年	25年3月期	対前期
	第1四半期	第1四半期	第1四半期	第1四半期	(%)	第2四半期 (予想)	(%)	(予想)	(%)
売上高	24,695	24,619	27,854	28,419	+2.0	56,900	+3.6	123,400	+3.2
営業利益	-756	489	871	1,150	+32.0	1,000	-25.1	6,500	+4.3
経常利益	-491	779	1,074	1,417	+32.0	1,300	-17.7	6,900	+1.1
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益	-462	1,183	787	885	+12.4	900	-52.4	5,000	-8.7

25年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

【売上高】 薬価改定の影響はあったものの、積極的な新薬の普及に努め、主力製品である「ベオーバ」、「ラスビック」等が伸長したことにより、新医薬品等（国内）は前年同期を上回る実績で推移しました。他方、後発医薬品の売上は減少しましたが、全体の売上高は284億19百万円と前年同期比5億64百万円の増収となりました。

【利益】 売上は増加したものの、原価率の上昇により売上総利益は前年同期に対して横ばいとなりました。他方、販売費及び一般管理費は前年同期比3億20百万円減少（うち、研究開発費は76百万円増加）した結果、営業利益は11億50百万円と前年同期比2億78百万円の増益となりました。経常利益は14億17百万円（前年同期比32.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億85百万円（前年同期比12.4%増）となりました。

25年3月期 連結業績（予想）

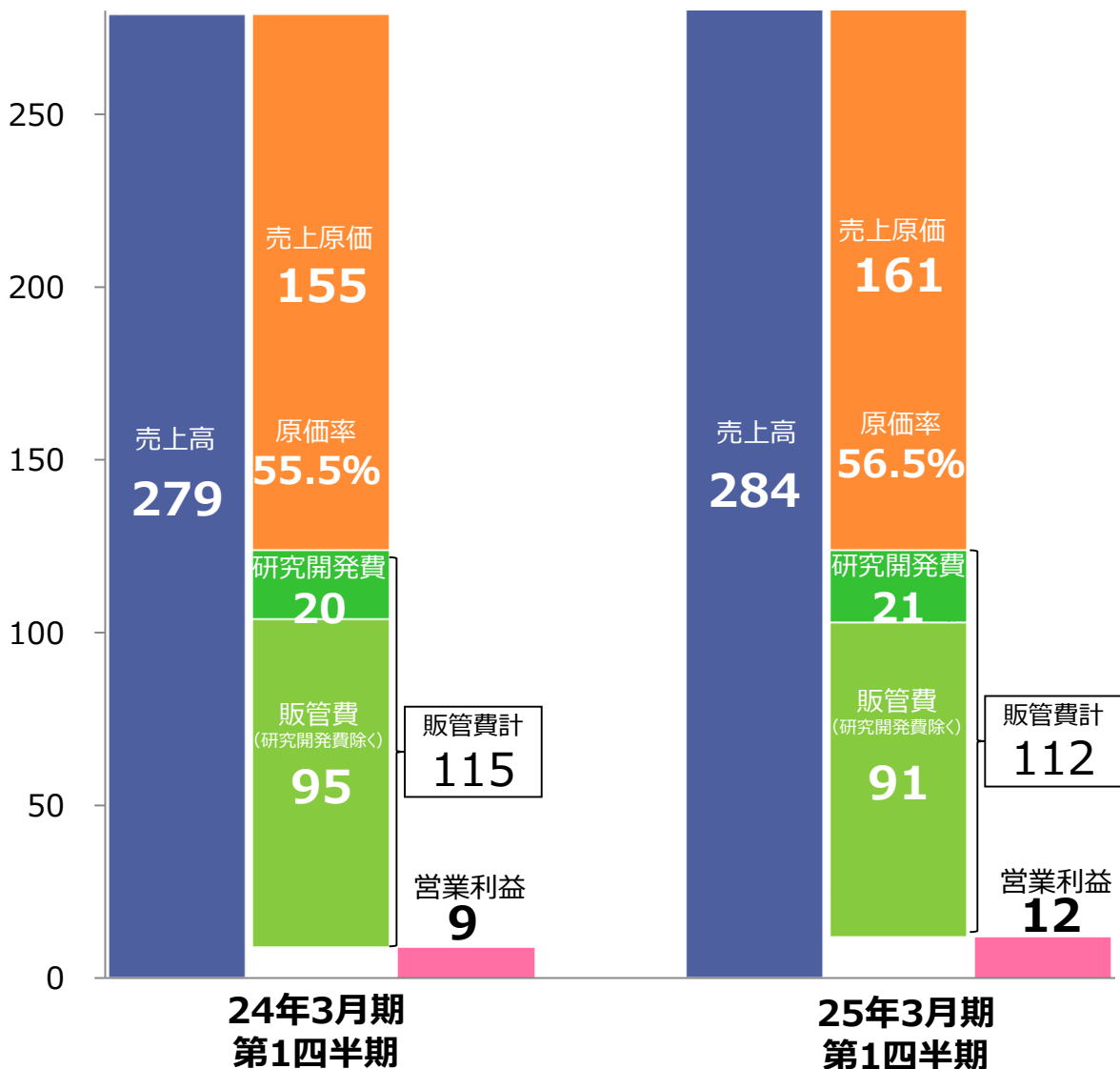
現時点におきまして、2024年5月10日に公表した第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。

（第2四半期業績予想に対する進捗度 売上高：49.9%、営業利益：115.0%）

また2024年5月10日に公表した配当予想（年間52円/株）の変更はございません。

2025年3月期 第1四半期 業績（連結）のポイント Kyorin

(単位：億円)



【ポイント】

売上高は増加 (+5億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
 - ・新薬（ベオーバ、ラスビック等）の伸長
- 後発医薬品は売上減少

売上原価率は1.0ポイント上昇

【低下要因】

- 新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加
- 後発医薬品の売上比率の低下

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬7%台）
- 為替変動の影響

売上総利益は横ばい

販管費は3億円減少

- 研究開発費は1億円増加
- 販管費（研究開発費除く）は4億円減少
 - ・販売費、人件費、減価償却費の減少

営業利益は増加 (+3億円)

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期第1四半期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

2025年3月期 第1四半期 業績（連結）の状況



(対前年)

(単位：億円)	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	対前年 (額)
売上高	279	284	+5
新医薬品等(国内)	189	199	+10
新医薬品(海外)	1	3	+2
後発医薬品	89	82	-7
営業利益	9	12	+3
経常利益	11	14	+3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8	9	+1

■ 売上高	284億円	(+5)
● 新医薬品等（国内）	199億円	(+10)
	24.3 (1Q)	25.3 (1Q)
・ベオーバ	42 ⇒	53 (+11)
・ラスビック	11 ⇒	16 (+5)
・リフヌア	2 ⇒	2 (0)
・デザレックス	16 ⇒	18 (+2)
・フルティフォーム	31 ⇒	32 (+1)
・ペンタサ	31 ⇒	32 (+1)
・キプレス	13 ⇒	10 (-3)
・ムコダイン	10 ⇒	8 (-2)
・ウリス	1 ⇒	1 (0)
● 新医薬品（海外）	3億円	(+2)
	ガチフロキサシンに関わる一時的な収入	
● 後発医薬品	82億円	(-7)
	オーソライズド・ジェネリック等の売上減少	
■ 営業利益	12億円	(+3)
● 原価率：56.5%（前年同期：55.5%）		
	【低下要因】新薬（ベオーバ、ラスビック等）の売上増加、後発医薬品の売上比率の低下	
	【上昇要因】薬価改定の影響、為替の影響	
● 研究開発費：21億円（前年同期：20億円）		
● 販管費(研究開発費除く)：91億円（前年同期：95億円）		
	販売費、人件費、減価償却費の減少	
■ 親会社株主に帰属する四半期純利益	9億円	(+1)

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期第1四半期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

2025年3月期 第1四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)	第1四半期						第2四半期		通期	
	24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)
売上高	27,854	28,419	+564	+2.0	49.9	23.0	54,937	56,900	119,532	123,400
新医薬品等（国内）	18,944	19,862	+917	+4.8	50.0	23.5	37,875	39,700	82,581	84,700
新医薬品（海外）	55	326	+271	+494.2	163.4	81.7	167	200	386	400
後発医薬品	8,854	8,229	-624	-7.1	48.7	21.5	16,895	16,900	36,564	38,200
営業利益	871	1,150	+278	+32.0	115.0	17.7	1,335	1,000	6,234	6,500
経常利益	1,074	1,417	+343	+32.0	109.1	20.5	1,578	1,300	6,822	6,900
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	787	885	+98	+12.4	98.4	17.7	1,890	900	5,475	5,000

※ 2025年3月期第1四半期より会計方針の変更を行っており、2024年3月期に係る数値については遡及修正後の数値を記載しております。

2025年3月期 第1四半期 主要製品の状況



(単位：億円)		第1四半期					第2四半期		通期		
		24年3月期 (実績)	25年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	中間 進捗率 (%)	通期 進捗率 (%)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)	24年3月期 (実績)	25年3月期 (予想)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	42	53	+11	+25.2	51.1	24.0	83	103	181	220
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	11	16	+5	+40.6	55.3	24.1	25	28	49	64
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	2	2	0	+16.5	30.0	13.1	4	6	8	15
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	16	18	+2	+9.8	49.6	18.6	31	36	89	96
	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	31	32	+1	+2.3	53.3	25.7	62	60	129	125
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	31	32	+1	+2.6	55.3	27.1	61	57	123	116
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	13	10	-3	-26.9	45.2	18.5	26	21	70	53
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	10	8	-2	-26.0	37.6	17.3	20	19	42	43
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	1	1	0	-23.2	60.3	32.8	3	1	5	3
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	5	4	-1	-6.7	45.4	23.0	10	9	19	19
	ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	4	3	-1	-24.9	36.8	19.3	8	8	15	15
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	30	28	-2	-7.1	53.7	23.3	58	51	123	118
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	5	4	-1	-23.9	32.3	8.0	9	10	45	43
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	2	1	-1	-10.9	53.5	26.7	3	2	6	5

開発品一覧① (2024年7月31日現在)

Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 (22年9月)	Ph3 (エイタイヤー社 : 米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	エイタイヤー社	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (22年8月)	—	KRP-114VP	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 (21年4月: 英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧②（2024年7月31日現在）

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬(株)	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬(株)	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結（20年9月） 高用量での追加Ph1試験（終了）

追加Ph1の結果を受け、データを再確認するために再度Ph1試験を実施中（あすか製薬）

導出品の状況

開発段階	製品名／ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph3	KRP-203	プリオセラ社	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡（20年9月）

その他：（2024年7月31日現在）

DTxの状況

契約先	開発コード	適応症	備考
サスメド	KRP-DT123	耳鳴	耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結（22年11月） 特定臨床研究開始（23年9月）